

*令和3年度の改善プランの検証

校舎の建て替えに伴い、狭い校庭なので、狭い中でも運動量を確保できるような単元を行ってきた。やはり体力の低下や運動技能の習得で難しい部分はあるが、単元計画を工夫したり、子ども同士や教師と子どもで教え合ったりすることで、技能の習得や体力の向上につながることが分かった。また、運動の楽しさを感じることができている児童が増えている一方で、できることやゲームや試合の勝ち負けに重きをおく児童がいる。できることや勝ち負けに偏重するのではなく、運動の特性にふれ、体をおもいきり動かし体育の学習の楽しさに触れさせる学習活動をさらに進めたい。また、画一的なめあてだけでなく、自分のめあてを意識した授業を行っていく。自己の課題を確認するため、昨年度に引き続きICT機器の活用を目指す。

*令和4年度の改善プラン

観点	児童の実態	明らかになった課題	具体的な授業改善案	
体育 知識及び技能	一年	<ul style="list-style-type: none"> ・運動経験の差が大きく、体の動かし方の習得に個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マット運動やボール投げ、固定遊具など、思い通りに体を動かして技能を習得すること。 ・走り方や投げ方の動きを身に付けること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の導入の場面では、主運動に繋がる運動遊びを取り入れ、多様な動きを知ったり、それに慣れたりできるようにする。 ・手や肘、膝などの部位に着目した声掛けをし、遊びの中で自分の体の動かし方を試す活動時間を十分にとる。
	二年	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の技能に個人差が見られる。 ・楽しみながら運動を行おうとする児童が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な運動遊びで体の使い方を慣れさせること。 ・児童によって運動経験や動きに対する理解を深めること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現遊びや鉄棒を使った運動遊びなど、児童が日常的に取り組めるような運動遊びの中に基本的かつ多様な動きを取り入れて身に付けられるようにする。 ・単元を通して身に付ける技能を明確にして活動に取り組ませる。
	三年	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に対して楽しさを感じている児童が多い。 ・巧緻性が低く、運動が苦手な児童とスポーツクラブ等で普段から運動をしている児童との運動技能の差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種運動を活発に行っていく中で基本となる動きや技能を身に付けること。 ・課題解決型学習を通じて、様々な運動の楽しさや喜びに触れること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動量を十分に確保できるように学習計画を立てる。 ・運動の楽しさを味わうことと、技能を向上させることをバランスよく計画的に設定していく。
	四年	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策や、校舎改築による校庭使用頻度の減少等による運動量低下で、全体的に体力低下、また、放課後や休日の過ごし方による個人差が見られる。 ・短距離走や投力、敏捷性は昨年度の全国平均と同程度と思われる。その一方で、持久力は下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・持久力をつけること。 ・運動の苦手な児童は、体の動かし方や使い方を身に付けていくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中に4分間走を入れて持久力をつける。 ・基本的な体の動かし方を教師が示範したり、動きのいい児童を手本で見せたりして、参考にできるようにする。また、自分の動きをタブレットで撮影して適宜確認できるようにする。
	五年	<ul style="list-style-type: none"> ・単元によって、運動の技能や体力の状況の個人差が大きい。 ・感染症対策や、校舎改築による校庭使用頻度の減少等による運動量低下している。体力テストの結果より、ソフトボール投げ(巧緻性・瞬発力)、50m走(スピード)の項目に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な運動の経験を増やし、体の動かし方や使い方を十分に理解すること。 ・環境面で厳しい部分があるが、日常的に運動ができる環境を作ること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の楽しさを伝えるとともに、各運動の技能面を向上させるために、年間指導計画及び、各単元の計画を工夫していく。 ・授業中、運動量を確保し、可能な限り様々な動きを経験させていく。
	六年	<ul style="list-style-type: none"> ・技能差や体力差が二極化している。 ・昨年度に続き、感染症対策、校舎改築により、例年よりもかなり運動の経験が低い。 ・体力テストの結果より、ソフトボール投げ、50m走の項目に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動する場所を確保したり、様々な動きを経験させ、体の動かし方や使い方を理解すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた場所、時間の中で、身に付けさせたい動きを厳選したり、体育の時間だけでなく休み時間にも体を動かす機会を設けたりする。
	一年	<ul style="list-style-type: none"> ・走り方やボールの投げ方、マット遊びなどについて、めあてやコツを意識して取り組もうとしている。 ・経験の差が大きく表れ、前回やボール投げの経験が少ない児童は、こつやポイントの理解が不十分ことがある。 ・活動を楽しむことに夢中になり、めあてを意識できていない児童もいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動を楽しみつつも、めあてを意識し、こつをつかみしながら取り組むこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、ペアやグループで運動を見合う活動を取り入れ、友達のよい動きに関心をもたせる。また、見本となる動きを見せ、その動きを真似してこつをつかませる。

思考力、判断力、表現力等

二年	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時のめあてに向かって課題に取り組もうとする様子が見られた。 ・体力の個人差がある。ボール運動など日常の活動が少ない児童は、動きが小さく不十分である。 ・活動の楽しさだけに気が向いてしまい、学習のめあてを意識できていない児童もいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動を楽しみつつも、めあてを意識し、こつをつかみしながら取り組むこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの課題カード・動画や友達の動きを通して、動きのポイントを具体的に提示するようにする。 ・振り返りを通して、楽しく運動をするきまりについて考える時間を設ける。
三年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の運動に対する課題を見つけ経験が少ない。 ・児童同士がコミュニケーションを図りながら学習を進める姿が見られる。 ・運動を工夫しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えたことを他者に伝えること。 ・自分に合った練習の場や方法を選択したり工夫したりできること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自分の技能を客観的に見られるような支援を行う。 ・児童同士がコミュニケーションを図ることができるような時間を十分に確保する。
四年	<ul style="list-style-type: none"> ・ネット型ゲームでは、チームごとに相談して練習したり、作戦を立てたりすることができた。 ・体の動かし方やポイントなどをアドバイスをし合うことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体の動かし方やポイントを理解すること。 ・ペアやグループで体の動かし方やポイントを教えたり作戦などを工夫したりすることができるようになること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体の動かし方やポイントを具体的に提示し、各自で確認できるように、タブレットや学習カードを準備する。 ・授業の中でペアやグループで相談する時間を設ける。
五年	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の運動の様子を見て、自分の動きにも取り入れようとする児童がいる。 ・動きのポイントを意識して、学習に取り組むことができない児童がいる。 ・授業中、自分のことで精一杯で、友達との教え合い学び合いが少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで話し合いをする際のポイントを理解すること。 ・体育の中での、教え合い学び合いの経験を増やすこと。 ・体のどの部分がどのように、どんな順番で動いているかまで、動作を分解し理解すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを効果的に活用し、動きのポイントや技のポイントを示し、友達に分かりやすく伝えられるよう、グループ活動の充実化を図る。 ・授業中に「ポイントタイム」のようなものを設定し、ポイントカードを見ながら、教え合い・学び合いができる時間を意図的に設定する。
六年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で体験した動きを、なぜできるようになったのか、どうしてできていないのかを振り返ることができる児童が各クラスに数名いる。 ・ゲームでは、作戦を立て、みんなで考える姿はあまり見られない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・できるようになった理由とできなかった理由を考えて振り返りをする。 ・技のこつを丁寧に指導し、どのようなことを意識して運動に取り組んだかを振り返られるようにすること。 ・作戦の有用性を実感できるような学習展開にすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りがしっかりできている児童の記述を紹介する。 ・動画資料を用いて動きを確認したり、上手にプレーできている児童を紹介して賞賛したりするなどして、どこに着目すればいいのかを全体に周知する。
一年	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことが好きで、元気いっぱい運動遊びをしている。休み時間ではボールや鉄棒、フラフープなどに意欲的に取り組んでいる。 ・友達と仲良く遊んだり、協力して準備や片付けをする姿勢が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・走る際に障害物がなくても転ぶことがよくある。 ・友達とぶつからない十分な間隔があるかなどに気を付けること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全指導を徹底して行い、動き始めの安全確認を意識させる
二年	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことが好きで、授業に意欲的に取り組む児童が多い。運動に苦手意識はある児童も、進んで取り組もうとする姿勢が見られる。 ・チームで行う運動では、なかなか話し合いがまとまらず、協力して行えないことがある。 ・個人の運動では、個々の能力に応じて活動をすすめることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの活動にもめあてをもって取り組むこと。 ・チームでの活動では、順番や規則を守ったり、役割分担をしたりして取り組むこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動によって身に付けたい力やめあてを明確にし、進んで活動できるようにする。 ・授業の流れを明確にし、見通しをもって行うことで、児童の意欲を高めていく。 ・音楽を積極的に取り入れ、補助運動の際、楽しみながら活動できる場面をたくさん設定していく。
三年	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に対して進んで取り組もうとする児童が多い。 ・決まりを守って協力をして運動しようとする児童が多い。 ・自らで安全に取り組もうとする意識が足りないことがある。 ・できないことに対して粘り強く取り組める児童とあきらめてしまう児童の個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・できるようになるまで粘り強く努力をすること。 ・安全に対する意識を高めること。 ・思い通りにならなくても、友達と協力をしたり、考えを受け入れながら活動を進めること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スモールステップで課題を解決していきけるように授業を組んでいく。 ・できたことを担当がしっかりと認めたり、児童同士が見合う中で賞賛したりして運動に対する意欲を高められるようにしていく。

主体的に

学習に 取り組む 態度	四年	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことが好きで、授業に意欲的に取り組む児童が多い。運動が得意でないと思われる児童も、進んで取り組もうとする姿勢が見られる。 ・ネット型ゲームなどチームで行う活動では、積極的に参加して取り組むが、個人で行う活動では、粘り強く取り組めない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人で記録を伸ばすような運動でも、自分で限界を決めず、個人のめあてを更新しながら、粘り強く取り組めるようにすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いに助言し合って高め合うことができるようなペア（もしくはトリオ）を作って、チームとして活動できるようにする。
	五年	<ul style="list-style-type: none"> ・体育が好きな児童が多く、各種の運動の楽しさや喜びに触れ、運動に進んで取り組んでいる。 ・「どうすれば早く走れるか」「どうすればできるようになるか」など、意欲的に運動に取り組む児童が多い。 ・こだわりが強く、勝負事ではトラブルにつながることもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手を尊重すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達同士の教え合い、学び合いの場を多く設ける。 ・勝負にこだわるだけでなく、相手のプレイを認め合う場も設定していく。
	六年	<ul style="list-style-type: none"> ・運動が好きな児童が多く、運動に進んで取り組んでいる。 ・「どうすればできるようになるか」「どうすれば勝てるか」など、主体的に運動に取り組む児童が多い。 ・勝ち負けを受け入れられず、トラブルになることもある。 ・安全に気を付け、率先して準備や片付けをする児童がたくさんいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームで負けを受け入れ、負けたことを次のゲームにつなげられるようになること。 ・相手を尊重すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームで負けても、チームでの良かったプレーや相手のプレーのどこが良かったかをふり返らせ、負けたことを次に生かせるように指導していく。